

いるか塾資料No.2013-020

2013-11-26

小林利治



## 年賀状辞退のはがき (一部読売新聞を引用)

最近が高齢などを理由に年賀状のやりとりを控えたいと考える人が少なくない。相手との関係を大切にしながら、辞退を伝える方法を考えてみる。

### 年賀状辞退葉書のポイント

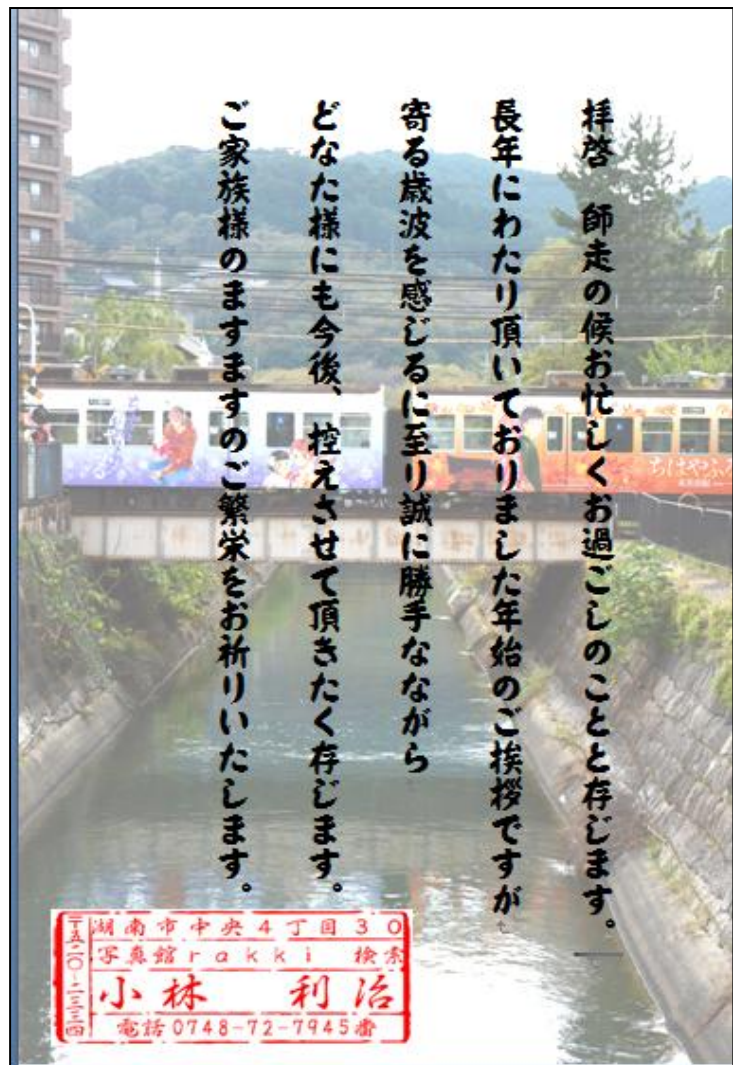
相手に不要な心配をかけないために理由を記す。

「どなた様にも」などと全員に同じ対応をしている意味合いを伝える。

付き合いそのものを止める訳でないので、「今後も変わらぬお付き合いをお願いします」などの言葉を書き添える。

「今後はメールやお電話などでお付き合いできればと存じます」など書き添える。

こうした年賀状辞退の知らせを受け取ったら、相手の気持ちを尊重して年賀状を出さないのが基本。「季節の便り」などでご縁を大切にすること。



年賀状辞退葉書を出す場合は 12月初旬までには出すようにしましょう、

年賀状を頂いた方だけに、年賀状辞退葉書を出す場合

前項と同じような意味合いの文面にする。

年賀状を頂いたお礼を記入する。

出す時期は、松のうち（1月15日）が明けてから早めに出した方が良いと思います。

この時期は「喪中はがき」を受け取って「寒中見舞い」を出す時と同じ時期です。

日本郵便のアンケート

喪中はがきを受け取って寒中見舞いを出す人は11%

何も出さない人66%

喪中はがきを機に年賀状のやりよりを途絶えさせる場合があります。

不幸があった事を、喪中はがきで知る事が多く（家族葬）喪中はがきは必要と思います

喪中はがき届いたら「喪中見舞い」として速やかに返信する事をお勧めします。

